

令和4年度 園評価書

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目	2 重点目標	評価指標	説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かでたくましい蒲原の子	自分で考えやってみようとする	様々なことに興味や関心をもち、「もっとやりたい」と自分なりに試したり挑戦し夢中になって遊んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・友達を楽しんでいる姿を見て「やってみよう」と興味を持ち、繰り返し遊んだり、工夫する姿が見られるようになってきている ・「もっとやりたい」と思う粘り強さや、遊びの継続が弱いと感じた ・遊んだ後の後始末や、扱い方が身についていない 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ある物で子ども達は、工夫してよくやっている。年中の劇あそびのオオカミたちの家づくりは面白い。すぐに楽しめるようなものではなく、工夫したり、考えることができる環境を用意してある。先生方も改修工事の中で、工夫してやっていると。先生達は、もっと自分たちのやっていることを高く評価してもいいのではないかと。自己肯定感が低すぎる。 ・「自分の思いや感じたこと態度や言葉で表現している」の評価指標は達成しているのではないかと。思いを通そうとする子がいるという課題は、それも「表現」の中に入る。通そうとするする姿は次の段階なのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの継続や発展することが弱いことから、「もっとやりたい」と思える魅力ある環境作りを職員間で学び直し協力して行っていく ・子ども達の発達をおさえそこに到達するにあたって、自分たちの学年がどこまでできていけばいいのかを理解し、保育を行っていく ・「認めること」「受けとめること」を引き続き行い、自己肯定感を高められるかかわりを行っていく
		自分の思いや感じたことを態度や言葉で表現している	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や保育者に自分の思いや考えを伝えられるようになり、振り返りの時など積極的に意見が言えるようになった ・自分の思いを通そうとする子もいる 	B	A		
		保育者や友達同士でのかかわりの中で、相手の思いや考えがあることに気づき、考えながら遊んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が間に入ることで相手の思いに気付く姿が出てきている。相手の思いに気付くことで折り合いをつけ、どうするかを自分たちで決めようとしている ・発達をおさえるのが弱い職員がいる 	B	B		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・子どもの発達や興味関心に合わせた活動や遊びが展開されている	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や現在の子どもの姿に応じた遊びを考え、教育保育を行うことができている ・後期は、遊び地図の作成を次月のねらいや評価を伝え合う機会を持ったため、園全体の保育の目を向けることができた ・子どもの遊びの発展、予測した環境の準備が足りなかった 	B	B	1- (3) : 「もっとやりたい」と心が動くために、小学校も動機づけを大事にしている	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びと行事のつながりを期案に起こし、毎月末検討することで、「園として保育をどのようにし進めていくか」を共通理解していく ・各学年のねらいや遊び構想を全職員が理解し遊び地図を作成することで、必要な環境をみんなで整えていく ・感染症が発生したときは、保護者に発信することで注意喚起を行っていく ・保護者と関係作りをしながら子ども一人一人の家庭環境や体調を把握し配慮や保護者対応を行っていく ・全職員が、遊び出しの環境設定 (環境構成・教材研究) と人的環境として言葉かけを意識して行う
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・健康カードからの読み取りや送迎時の保護者とのやり取りから、個々の生活や健康状態を把握している	<ul style="list-style-type: none"> ・健康カードや登園時の保護者との聞き取りで一人一人の体調を把握している 	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	・「もっとやりたい」と気持ち動くような、言葉かけをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心に合わせた言葉かけを意識し、子どもの思いを肯定的に受け止め気持ちに寄り添うことができた ・言葉だけではなく、環境も一体となって行っていないと「やってみよう」「もっとやりたい」の姿に繋がらないのではないかと。また、園全体として方向性が定まり環境の共通理解ができていない 	B	B		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・自園の地域の防災マップを確認し、災害ごとにどのような避難経路が良いのか、共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画通りに避難訓練の実施、ヒヤリハットの共有が打合せ時にできている ・反省が活かしきれていない ・全職員が課題を共有できていない 	B	B	5 : 学校の分掌も、リーダー中心となって全体把握者となり全員で役割分担して行っている。新しく来た先生でもできる体制になっている。園も、分掌リーダーを中心に、保育や行事が進めていけるように頑張してほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の共有を行い。次に活かしていけるように会議や打ち合わせ等で対策を決める ・様々な想定を計画し、避難訓練を行うことで危機管理意識を高めていく
		・ヒヤリハットの定期的な検証を行い、安全対策、防犯対策等保育を見直している	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で出来た」「出来るようになった」という気持ちが持てるような援助をし、他児の様子を意図的に知らせ意識させたりすることで、意欲的に身につけようとしている ・家庭との連携がうまくいかない 	B	B		
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・身の回りのことは自分でやってみようとし、基本的な生活習慣が身につくように経験や発達に合った指導を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で出来た」「出来るようになった」という気持ちが持てるような援助をし、他児の様子を意図的に知らせ意識させたりすることで、意欲的に身につけようとしている ・家庭との連携がうまくいかない 	B	B	9 : スタートカリキュラムも作っているのでアプローチカリキュラムとつなげていきたい。1年生の様子を実際に見学して、担任と連携してほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が年齢に合った基本的な生活習慣を理解し、年長までの発達の道筋をおさえ保育を行い、家庭にも発達と具体的にどうしたらいいのかを伝え共に子育てを行っていく ・事前に会議資料を配布することで、会議に参加できない職員の意見を吸い上げ、全職員がケース会議に参加できるように調整を行っていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・ケース会議を定期的に行う。様々な職種の保育者が会議に参加し支援方法や子ども理解を共有できている	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議が定期的実施され、情報の回覧や会議報告により、子ども理解や支援方法が共有される形が出来始めている。 ・全員への周知までは至っていない 	B	B		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	・PDCAサイクルを基に、一人一人が責任をもち全職員が協力して教育保育を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人一人が子どもの思いを考え、責任をもって保育を行っている ・月末に職員会議で各学年のねらいや内容、反省を伝え合うことで他のクラスの様子にも関心をもつことができた ・行事内容の確認や役割分担が明確ではなく、協力して進めていくことが難しかった ・各種会議の内容が職員に周知されず、園全体として保育や遊びの方向性を共通認識することが難しかった 	B	B	10 : 地域交流のパイプ役として、学校応援団とのコーディネーターが学校に在る。相談してみたらどうか	<ul style="list-style-type: none"> ・「園として日々の保育をどのように進めるのか」のプランニングと周知を確実にする
		6 研修	(1)研修体制の充実	・園内外の研修に出来るだけ多くの職員が参加したり、研修報告、研修だよりを通して全職員が共有することで保育の質を保育の質を向上していく	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通し学んだことを保育で実践しようとする動きが出てきた ・年間で研修計画ができていたので見通しのある研修体制があった ・保育の学びの基盤が安定しない ・研修に参加する職員に限られている 		
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	・園内の絵本環境を整え、季節や発達に合った絵本を増やしていく	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の貸し出しや絵本だよりの発行を行い、絵本への関心が高まった ・絵本の紹介や季節の絵本の展示などを子ども達が喜んでいました ・発達や季節に合った絵本がもっとあるとよい (図鑑やシリーズもの) ・子どもの絵本の扱い方が雑である (指導が行き届いていない) ・工事もあり絵本コーナーを整えることが難しかった 	B	B	昔、挨拶と靴箱の靴、返事でその学校の様子がわかるといっていた。幼児期に、挨拶が習慣化できればいいのではないかと。また、名前を呼ばれたら返事をするという経験が家庭ではないので、園で教えていく必要があるかもしれない。中学生でも名前を呼ばれても、返事をしない子がいる。クラス単位ならできるが、個々になるとできない。どうしたら、個々でもできるようにするのか考えていく必要はあるかもしれない	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も「教育・保育環境の充実」のために絵本を活用していく ・来年度、各学年で毎月読んだ絵本をリストアップし、蒲原東部の「絵本の年間資料」を作成する。 ・絵本の貸し出しや、絵本の展示、絵本だよりの発行などを継続して行う
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・園での活動を積極的に掲示やクラスボードで伝え発信する。子どもの姿や保育の意図が伝わるよう内容を工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から写真入りのドキュメンテーションを掲示したことで、保護者はよく立ち止まり掲示物を見ていた。(写真だと自分の子どもがいるかとよく見てくれていた) ・遊びの経過をお便りで知りたいという声がある 	A	A		
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	・公開授業や公開保育への参加を通してお互いの教育保育の理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣園の職員と行き来し研究保育の実施きた。 ・小学校の行事の見学や参加ができた ・近隣園、小学校との交流が不十分である ・架け橋プログラムを意識した交流になっていない 	B	B	園外での遊び場を新たに見つけることができた。職員の地域のつながりについて意識は高まっている	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との年間を通して計画的な交流を今以上にしていきたい ・自分たちの保育が小学校の学びにどのようにつながるのか、研究授業に参加させてもらい学ばせてもらう機会を作る ・他園の公開保育に参加し学びを園で活かす。特に環境・教材研究に活かしていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・地域に出掛け、人や自然とつながっていく	<ul style="list-style-type: none"> ・園外での遊び場を新たに見つけることができた。職員の地域のつながりについて意識は高まっている ・あいさつをきっかけにして地域に自分たちのことを知ってもらおうとする発信力が弱い 	B	B		